

2	巻頭エッセイ ボクは何人? .....戸田郁子
3	表紙使用作品および表紙作家紹介
4	第19回日韓文化交流基金韓国訪問団 第4回日韓文化交流基金賞
6	「日韓交流支援サイト」を開設しました
7	2003年度下半期助成対象事業
8	助成事業紹介 「縁」～利川第一高校・白山高校やきもの交流をささえるもの～ ...生地陽 公演『祝祭の大地から』 韓、日、在日が手をたずさえて ...羽鳥直志
10	日韓文化交流基金事業報告
12	フェロー研究紹介 韓・日は一層の協力で新しい発展モデルを構築しよう .....李鐘允

巻頭エッセイ

# ボクは何人？

戸田郁子 エッセイスト



朝鮮族の村では子どもの数が急速に減りつつある  
[撮影：柳銀珪]

15年間住み慣れたソウルを離れ、中国吉林省延边朝鮮族自治州の州都延吉市に来て3年になる。息子はここで漢族の小学校に通っている。朝鮮族の小学校、韓国人学校、インターナショナルスクールと4つの選択肢があったのだが、「家から歩いて通える地元の学校」という親の願いにかなったのは、漢族の小学校だった。

息子はどんなふうにアイデンティテ

ィーを確立していくのだろうか。つれあいは韓国人、私は日本人で息子は二重国籍なのだが、彼自身はこれからそれをどう思うのだろうか。

「ボクは何人なの」と息子が初めて私に聞いたのは、韓国の幼稚園に通っていた時だ。李舜臣將軍の話の聞いたと言っていたから、「日本人」と答えたら傷つくかしらと思い、とっさに「おまえは中国人よ」と言ってみた。予期しなかった答えに息子は目をまん丸にしたが、実はこの子が赤ちゃんだったころ家族でハルビンに暮らしていたため、「おまえはハルビン生まれの中国人」という私のウソをいとも簡単に信じこんだ。

ところが延吉に来てまもなく、息子

表紙作品



「韓国のトラ」  
2002釜山ビエンナーレ出品作

表紙作家紹介 島袋道浩 (しまぶく みちひろ)



1969年神戸生まれ。大阪の美術専門学校を卒業後、米国へ渡り、サンフランシスコ美術大学を卒業、帰国して神戸港の船で働く。その後ブラジル、フランス、オランダ、米国などの海辺の町を中心に旅行、滞在を続けながら作品を制作している、きわめてユニークなアーティストである。制作途上で、また展示会場で、その場にいる人や観客は島袋とのコミュニケーションを展開し、作品に参加していく。また、島袋はしばしば土地の歴史を読み解いて、そこから現実にあった物語を読み直したり、あるいは非現実的でユーモラスな新しい物語を作りだす。2001年横浜トリエンナーレ、2002年釜山ビエンナーレに参加。

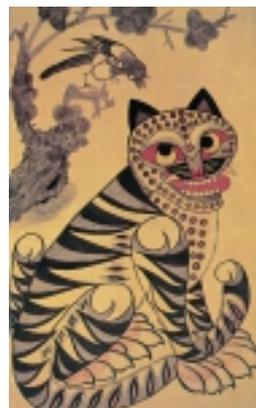
韓国、朝鮮時代の生活画の中にはたくさんのトラを見ることができる。トラは最もよく描かれたモチーフのひとつであり、ひょうきんでユーモラスな動物、人々と近い生き物として描かれている。

かつて韓国の自然の中には本物のトラがいて、実際に人々と近いところにいたせいだろうか、日本や中国の絵画のトラにしばしば見られる猛々しい感じ、人々より高いところにいる恐い神様のような感じはあまり無い。

韓国生活画のトラはトリやウサギと話をし、時にかかわれているようにさえ見える。トラは花に見とれ、人々はトラの背中にまたがり共に旅をする。

僕はこのトラの位置、トラと人々との関係に魅了された。そして韓国のトラが大好きになった。なぜなら韓国生活画のトラと人々との関係は僕が理想とする現代芸術と人々、社会との関係ととてもよく似ていたから。それで韓国のトラについての作品を作ることにした。作品、[韓国のトラ]は時空を超え、韓国生活画に描かれたように今も人々と共に生きる。

[韓国のトラ] (2002釜山ビエンナーレ出品作の一部として作成されたパンフレットより抜粋)



作家の言葉

が目に涙をためて私に抗議するではないか。「ボク、本当は中国人じゃないんでしょ。だって学校で、ボクだけ中国語ができないよ！」なるほど、言葉がしゃべれればその国の人になれると息子は思いこんでいるのだ。漢族の学校に入れられて、聞くのも話すのもわからずに苦しんでいた時だった。中国語を不自由なく操る今では「ボク、このごろ中国人になってきたよ」と言う。私は息子に「おまえはアジア人」と教えるようにしている。

延吉には韓国人が2000人余り住んでおり、私も平素韓国のアジュンマたちと付き合う機会が多い。その中に「子どもの教育のためにここに来た」という家族がけっこういるのに驚かさ

れる。韓国で流行<sup>はやり</sup>の『早期留学』だ。親は中国語が全くできないから、中国の別の地域に住む自信はない。しかも親の方は中国にあまり興味もなく、中国内を旅行したこともない。韓国語が通じるという理由で延吉に住み、子どもだけ漢族の学校に通わせているのだ。

ゆくゆくは韓国で大学にやるにしても、外国の学校を出ているの方が受験に有利だし、外国語が不自由なく使えれば仕事はいくらでもあるだろう。なにしろ韓国にいるより生活費もかからないし教育費も格安だからと、親たちは口をそろえる。

しかし中国の小学校の教科書を見ると、内容はあくまでも中国人としての教育だ。たぶん日本でも韓国でも、義

務教育の課程ではその国の国民としての教育が行われているはず。幼いころ受けた教育は記憶の底に刷り込まれ、やがてその人の思考を左右するのだろう。はたして早期留学組の子どもたちは、どんな葛藤を経てアイデンティティを確立していくのか。私は興味津々で韓国からやって来たそんな子どもたちを眺めている。



とだ いくこ

韓国の高麗大学校史学科で日韓近代史を学び、中国朝鮮族の移住と定着の歴史に関心を寄せ、現在は家族で中国延吉に住んでいる。著書に『ふだん着のソウル案内』『ソウルは今日も快晴』など。

# 第19回日韓文化交流基金韓国訪問団 第4回日韓文化交流基金賞

8月26～29日に、当基金の役員および国内の文化界関係者からなる

「第19回日韓文化交流基金韓国訪問団」が韓国を訪問し、

韓国各界の要人への表敬訪問や、関係者との懇談会を行いました。

また、27、28日には、「第4回日韓文化交流基金賞」の授賞式を開催しました。

## 第19回日韓文化交流基金韓国訪問団

「日韓文化交流基金韓国訪問団」は、毎年1回韓国を訪問し、韓国側関係者や各界要人への表敬訪問、韓国在住の日本人との懇談などを行っています。

今回の訪韓団には、当基金特別顧問である第14代薩摩焼宗家沈壽官氏と、韓国での俳句紀行についての著書を日

韓両国語で出版された黛まどか氏(日韓文化交流会議委員)も参加され、表敬先や懇談会の席でさまざまなエピソードを紹介され、韓国各界の方々との交流を深めました。

歓迎晩餐会にて

ソウルと釜山で開催された晩餐会および日韓文化交流基金賞授賞式では、高野紀元駐韓日本国大使が祝辞を述べられたほか、韓国の孔魯明元外務部長官、呉在熙元駐日韓国大使、池明観日韓文化交流会議韓国側座長ほか関係者



## 日程

8月26日

結団式、出発

高野紀元駐韓日本国大使表敬、「韓国の現状」に関するブリーフィング

具滋暲韓日文化交流基金会長主催歓迎晩餐会

8月27日

ソウルジャパンプラブ役員との朝食会

金鍾泌韓日議員連盟会長表敬

金守漢韓日親善協会中央会会長表敬

在ソウル日本人特派員との昼食懇談会

李滄東文化観光部長官表敬

尹永寛外交通商部長官表敬

藤村正哉日韓文化交流基金会長主催答礼晩餐会 / 第4回日韓文化交流基金賞授賞式(ソウル)

8月28日

釜山日本人役員との昼食会

ルノーサムスン自動車工場視察

日韓文化交流基金フェロウシップ経験者との懇談晩餐会 / 第4回日韓文化交流基金賞授賞式(釜山)

8月29日

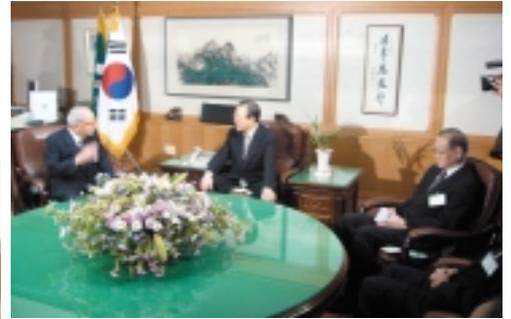
許南植釜山広域市政務副市長表敬

帰国

## 参加者

団長	藤村正哉	(財)日韓文化交流基金会長、三菱マテリアル(株)相談役
副団長	熊谷直博	(財)日韓文化交流基金理事長
顧問	戸塚進也	(財)日韓文化交流基金常任理事、元衆議院議員
顧問	竹内宏	(財)日韓文化交流基金評議員、(財)静岡総合研究機構理事長
顧問	三浦隆	(財)日韓文化交流基金理事、桐蔭横浜大学名誉教授
顧問	沈壽官	(財)日韓文化交流基金特別顧問、第14代薩摩焼宗家
団員	小山敬次郎	(財)日韓文化交流基金理事、目白大学教授
団員	榎崎正博	(財)日韓文化交流基金理事、関電産業(株)相談役
団員	梅田博之	麗澤大学学長
団員	石川捷治	九州大学韓国研究センター長
団員	前田二生	指揮者
団員	大竹洋子	東京国際女性映画祭ディレクター
団員	松尾修吾	国立科学博物館監事
団員	黛まどか	俳人
団員	堀泰三	(財)日韓文化交流基金理事・事務局長

も多数参加されました。また、当基金のフェローとして採用され、日本国内で研究活動を行った韓国の研究者の方々も出席され、最近の研究の様子や、日本滞在時のエピソードなどについて懇談されました。



金鍾泌 韓日議員連盟会長表敬

李滄東 文化観光部長官表敬

#### 第4回日韓文化交流基金賞

2003年度の「第4回日韓文化交流基金賞」は、姜英姫氏(韓日女性親善協会副会長) 高松久氏(釜山韓日文化交流協会理事長) 尹東赫氏( Green Star Production 代表)に決定し、ソウルおよび釜山で授賞式を行い、各氏の日韓交流に対する長年の功績をたたえました。



高松久氏の授賞式のスピーチ

この賞は、文化・芸術分野での交流を通じて日韓両国間の友好親善に寄与した韓国人の功績をたたえるため、1999年に創設されたもので、これまでに10人の方を表彰しています。在韓国日本大使館をはじめとする韓国内の日本公館、ソウルジャパンプラブ、在ソウル日本人特派員団などから候補者の推薦を受け、当基金にて審査を行った上で受賞者を決定しています。

#### 受賞者プロフィール

姜英姫(カン・ヨンヒ)

1946年生まれ、社団法人韓日女性親善協会副会長、フルート奏者



受賞理由

韓日女性親善協会において20年以上にわたり「日韓児童絵画交流展」を開催するなど、地道な草の根交流活動を実施しました。また、フルート奏者として在韓国日本大使館や在韓日本人会婦人部主催の交流事業に数多く参加しました。

高松久(コ・ソング)

1940年生まれ、社団法人釜山韓日文化交流協会理事長



受賞理由

1987年に設立された釜山韓日文化交流協会にて会長・理事長を歴任し、釜山における日韓文化交流の草分け的存在として、困難な環境の中で青少年交流、日本文化紹介、日本語講座・韓国語講座の運営など、両国民の相互理解増進のため尽力しました。

尹東赫(ユン・ドンヒョク)

1951年生まれ、Green Star Production 代表(テレビ番組制作)



受賞理由

テレビ番組のプロデューサーとして、「日韓の食の交流史」の視点から、自らが制作した番組で日本の食文化や地方文化を紹介し、韓国の視聴者に日本理解の絶好の素材を提供しました。1990年にはNHKスペシャル「父と子」制作に参加しました。



授賞式の姜英姫氏・尹東赫氏

# 「日韓交流支援サイト」を開設しました

<http://www.jkcf.or.jp/shien>

日韓文化交流基金ホームページ <http://www.jkcf.or.jp> からリンクしています。

当基金は今年の7月から、インターネット上に「日韓交流支援サイト」を開設し、日韓交流に関する様々な情報の提供を行っています。

日韓交流の情報を得たい、交流行事や文化行事に参加してみたい、自分たちのイベントを広報したい、交流に対する支援の制度やノウハウについて知りたい、という団体や個人のために、多彩なコンテンツを用意し、最新の情報を提供するようにつとめています。どうぞご利用ください。

「日韓交流支援サイト」では、日韓交流を情報面から支援し、個人や団体の活動を活性化させることを目的として、日韓の相互理解促進と友好増進を目的とした事業・イベントの紹介、交流に役立つノウハウやデータなどの提供を行っています。

昨年のサッカーワールドカップ共催および「日韓国民交流年」を経て、日本の各地で韓国との交流が拡大し、多彩な取り組みが行われています。本サイトはそれらの情報を分かりやすく提供し、日韓交流の「今」に一般の方が容易に触れることができるポータルサイトとして、今後より一層充実したものにしていこう方針です。

## コンテンツ

### 1. イベントカレンダー

日本各地で行われる日韓交流事業・イベント情報を毎月紹介しています。対象となるのは、交流・研修プログラム、芸術公演、展示会など、規模を問わず、日韓の相互理解促進と友好増進を目的とした事業・イベントです。

また、イベント情報は随時募集しています。サイトへの情報掲載を希望される方は、詳しくはサイトの「対象となる事業の条件」をご覧ください。基金担当者までお問い合わせください。

### 2. 交流TIPS

交流事業を行うためのノウハウや、過去の交流事業の事例紹介を行い、交流に取り組む方々のための具体的な知識や情報を提供しています。

過去の事例では、当基金の助成対象事業の事例から、事業実施までの経緯や当事者の感想などを紹介しています。

### 3. データベース

日韓交流に関連する様々なデータの提供を行います。現在は当基金が作成した「日本における韓国・朝鮮研究研究者ディレクトリデータベース」にリンクしています。

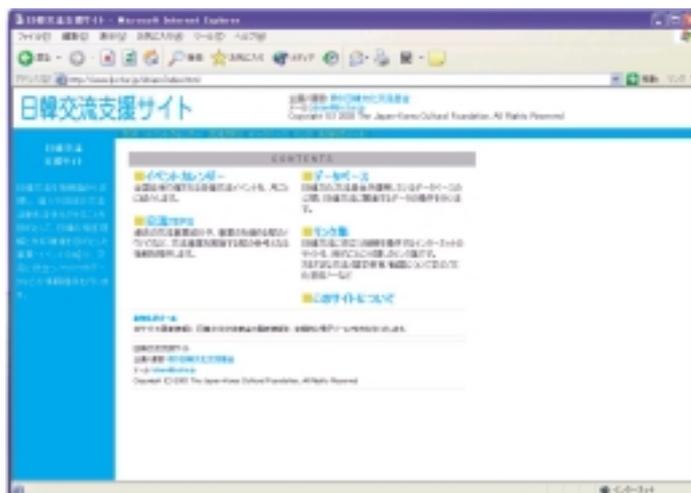
今後さらにデータを追加していく予定です。

### 4. リンク集

日韓交流に役立つ情報を提供するインターネットのサイトを、目的ごとに分類して紹介するリンク集を作りました。

例えば「さまざまな交流」では、市民交流や青少年交流、あるいはスポーツ交流といった分野ごとに、実際に交流に携わる団体のサイトへのリンクを掲載しています。

また、「語学教育」では韓国語教育を行っている機関のサイトを、「主な助成制度」では日韓間を含む国際交流や市民活動を支援する代表的な助成財団のサイトを掲載するなど、韓国との交流を行うにあたり、いろいろな面から情報を得られるサイトを紹介しています。



「日韓交流支援サイト」トップページ

# 2003年度下半期助成対象事業

2003年度下半期の助成事業の募集には、52件の申請があり、  
この中から、以下の26件の事業への助成が決定いたしました。

## 日韓共同未来プロジェクト 11件

インターネットを活用したテレビ会議システム構築実験 - 日韓オルタナティブ教育交流事業の一環として -	特定非営利活動法人東京シュール	2003/10/1-12/26	ソウル・ハジャセンター、 東京シュール
ALICE FESTIVAL 2003 (The 7th Asia Little Theater Exchange Network in Tokyo)	NPO ARCタイニイアリス	2003/10/14-10/17	東京・タイニイアリス
日韓大学生交流：経験と認識の共有	光州女子大学校	2003/10/20-10/24	慶應義塾大学、お茶の水女子大学、 国際基督教大学ほか
日韓国際現代美術展2003	日韓国際現代美術展2003 刻	2003/10/20-10/26	神奈川県民ホールギャラリー
北九州JIA（日本建築家協会） 学生建築Workshop日韓学生共同参加	東西大学校建設工学部	2003/10/24-10/26	TOTO北九州ショールーム 大展示室
日韓合作カンタータ「森はふるさと」埼玉公演	日韓文化交流を進める会	2003/11/13-11/17	埼玉・飯能市文化会館、 春日部市民文化会館
乙訓高校・ソウル高校 『日韓高校生スポーツ交流・史跡フィールドワーク交流』	京都府立乙訓高等学校硬式野球部保護者会	2003/11/14-11/17、 2004/3/26-3/30	京都・乙訓高校、ソウル高校
日韓市民社会フォーラム2003	日韓市民社会フォーラム2003実行委員会	2003/11/19-11/22	国立オリンピック記念青少年 総合センター
第32回日韓学生会議	日本国際学生協会	2004/1/3-1/8	京都、奈良
日韓の大学院生間の共同ワークショップと知的交流	韓日社会文化フォーラム	2004/1/18-1/31	九州大学、京都大学、静岡県立 大学、東京大学、筑波大学
「現代陶芸・新世代の交感展」に伴う日韓若手陶芸家交流事業	「現代陶芸・新世代の交感展」実行委員会	2004/2/11-2/18	愛知県陶磁資料館

## 青少年・草の根交流 5件

日韓文化（音楽）交流事業	T・オアシスanオーケストラ	2003/10/2-10/6	慶北・聞慶市
2003 Korea-Japan Mentally Retarded Football Festival	日本ハンディキャップサッカー連盟	2003/10/10-10/13	釜山
第36回習志野市八千代市教育研究集会	習志野市八千代市教育研究集会実行委員会	2003/10/11	千葉・習志野市立大久保東小学校
バランセク・文化空間 コリア文化共同ワークショップ	コリア文化サークル「バランセク」	2003/11/29-12/1	京畿・富川市
日韓大綱引き交流事業	刈和野大綱引保存会	2004/3/30-4/3	忠南・唐津郡松嶽面

## シンポジウム・国際会議 6件

日本政治学会・韓国政治学会交流事業	日本政治学会国際交流委員会	2003/10/3-10/5、 12/3-12/5	尚美学園大学、仁荷大学校
日韓国際政治学会合同会議	日本国際政治学会	2003/10/17-10/19	茨城・つくば国際会議場
海洋を通して見た東アジアの文化交流	成均館大学校人文科学研究所	2003/10/23-10/24	成均館大学校退溪人文館講堂
『源氏物語』 - 国際会議	韓国外語大学校外国語研究センター 日本研究所	2003/11/7-11/9	韓国外語大学校
国際シンポジウム - グローバル時代における日韓両文化の再照明 -	韓国日語日文学会	2003/12/12-12/13	韓国外語大学校
朝鮮通信使とまちづくりに関する日韓共同会議	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科	2004/3/5-3/6	釜山、慶南・密陽市

## 芸術交流 4件

2003現代韓日陶芸展～共生をめざして～ Simmering-plenty-funny	現代韓日陶芸展日本実行委員会 + Gallery（プラスギャラリー）	2003/10/4-10/20 2003/10/6-10/20、 12/16-12/21	ソウル・錦湖美術館 暁園大学校、愛知・名古屋 市民ギャラリー矢田、 + Gallery（プラスギャラリー）
日韓美術文化交流 日本美術会 公州展 KOREA 2003	日本美術会	2003/10/9-10/14	忠南・公州市文芸会館
日韓演劇交流公演	三・一の会	2004/3/19-3/30	ソウル文芸会館（または国立劇場）、 江原・束草文化会館

## 「縁」～利川第一高校・白山高校やきもの交流をささえるもの～

神奈川県立白山高等学校 教諭 生地 陽

白山高校は神奈川の県立高校初の韓国修学旅行の実施校の一つとなり、3年前より韓国の学校との交流を模索してまいりました。本校は陶芸教育が盛んなことから、漠然と「やきものの町」の学校との交流を期待しておりましたところ、本校の教員の家族が利川出身であったことから、利川に暮らす幼なじみたちのボランタリーな協力で利川第一高等学校との交流が始まりました。利川第一高等学校は第2次世界大戦後、農業高校として出発し、工業系、農業系、そして高麗青磁の復興に百余年の人生を燃焼させた柳海剛が窯を開



共同で陶板をデザインする [撮影：高松正孝]



ろくろで日本の土の感触を味わう [撮影：梁正模]

いた地でその後継者を育てる陶芸デザイン科を開設する職業高校として発展してきました。一方、白山高校は国際教養コースと美術コースを各1学級ずつ開設する特色を持つ創立約30年の普通科高校です。したがって教育の姿勢は、利川が職業科として将来の職業に直結した性格を持ち、白山の美術コースは美術系の進学が目立つものの、教養としての性格があると言えます。

両校の交流は2002年の春から始まりました。双方とも相手国の言葉を授業科目として開設していますが、十分なコミュニケーションができる生徒はまだ育っておりません。教員側としては、コミュニケーションの支援に配慮をしてきました。最初の交流としてはインターネットの日韓翻訳サイトを利用した電子メール交換を始め、双方の30名程度の生徒が参加しました。2002年10月の修学旅行における白山高校2年生200名の訪問もセレモニー

的な交流に終わらせないために、日程も2日に分け、両校の生徒が考えた出し物を発表する交歓会、翌日の利川第一高校でのサッカー、つなひき、陶芸実習など、言葉を使わなくてもコミュニケーションできるプログラムを工夫しました。

そして、今回の交流事業では、両校の生徒が日韓の美術について学び、陶芸の実習をし、鎌倉や横浜の町を歩き、また、瀬戸と多治見のやきものにゆかりのある地を訪ねました。特に、百余年の歴史を誇る、人間国宝を2名も出した陶芸、窯業教育の名門校、岐阜県立多治見工業高校セラミック科との新しい出会いは両校にとって新たな刺激になりました。

双方とも言葉が不十分でも、やきものの作品を見て、感じることは大きかったようです。白山の生徒は利川の生徒たちのろくろを使う手つきに将来プロを目指す気迫を感じていましたし、利川の生徒は日本の陶芸のデザインや技法を参考に新たな作品をつくってみたいという感想を話していました。白山高校側は全行程を同じメンバーが同行することができなかつたため、今後の交流においては両校の生徒がやきものについて十分語り合う場面を作っていければと思います。日本と韓国のやきものが結び古来からの縁に支えられて、将来、新しいやきものの形なり、あり方なりが、この交流から発信されることを楽しみに見守っていききたいものです。



おいぢ あきら

東京都立大学大学院で社会人類学を専攻。グローバル化に伴う文化の変容に注目し沖縄をフィールドに研究を展開。現職においては韓国との生徒間交流を担当。  
hakusano@hotmail.com

# 公演『祝祭の大地から』 韓、日、在日が手をたずさえて

「ノリパン」制作 羽鳥直志

ノリパンは1985年6月、名古屋市で在日韓国朝鮮人二世の家族が集まり、三世である子供たちに民族の文化に触れる場を作ろうと始めました。翌年には日本人家族も参加、以来在日と日本人がともに朝鮮韓国の文化を学びながら交流する道を歩んでいます。「ノリパン」とは韓国朝鮮語で『遊びの場』。メンバーは20数名、幼児から50歳代まで、民族構成も在日コリアン、日韓のダブル、日本人と多彩です。毎週土曜、生涯学習センターに集い、伝統打楽器や伝統舞踊の練習を行っています。

地域の祭り「今池まつり」には農楽隊として10年以上参加、近年は学校や自治体からの招請が増えています。豊田市の小学校では演奏の後で全校生徒と手をつなぎ、朝鮮半島のわらべ歌を歌いながら踊り、歓声があふれました。春日井市の中学校では総合学習として公演とお話をしました。私たちは公演を行う際に、演奏と併せて在日の歴史や文化について話す場を作っていたいてきました。ともに楽しく文化を学びながら、共生を願う私たちのあり方を伝えることで、参加した皆さんにこのような訴えも暖かく受け入れられてきたと思います。

1990年からは毎年韓国から伝統芸能家を招き、音楽と舞踊のワークショップを行ってきました。寝食をともにして、祖国のそして隣国の文化と人に接する場を持てることは、私たちのみならず参加した一般の方々からも好評



ワークショップ(笛=タンソ) 右、チャン・ヨンス(ノルムマチサムルノリ)



ワークショップ(舞踊) 手前右、パク・キョンラン



公演フィナーレ。出演者全員で珍島アリランを合唱。中央はチャン・サイク

[撮影◎・羽鳥直志/Hatori Naoshi]

を得ています。

我々の活動を総括し、韓国朝鮮の優れた芸能を広く市民の皆さんと共有したいという願いを実現させるため、7月26日、名古屋市青少年文化センターで開催した公演は、全席完売という盛況なものでした。演出と出演者のコーディネートは韓国KBSテレビプロデューサーのチン・オクソプ。出演者はノルムマチサムルノリ、歌手のチャン・サイク、舞踊家のパク・キョンラン、キム・ウンテ、重要無形文化財・固城五廣大保存会のイ・ユンソク、同重要無形文化財・南海岸別神クッ保存会のチョン・ヨンマンの各氏他総勢14名、韓国伝統芸術の第一人者と在日関西人シンガー趙博氏、ノリパン20名という、韓・日・在日による共同作業の結実といえるものでした。演出家や出演者とは先のワークショップを通じ

て出会い交流してきました。ノリパンの演目はノルムマチ、チン・オクソプ、パク・キョンラン各氏によるワークショップの賜物でした。

なおこの模様はKBSテレビのドキュメンタリーとして韓国で放映されました(日曜スペシャル「在日の祝祭」8月16日20:00放映)。韓国でも正しく理解されているとはいえない、在日韓国朝鮮の人々の民族的アイデンティティを求める真摯な姿が描かれ反響を呼んでいます。また在日メンバーと日本人メンバーとが手をたずさえるノリパンのあり方も共感を得たことを書き添えたいと思います。

## 【ノリパン連絡先】

<http://www.ne.jp/asahi/nori-pan/net/>

## はとり なおし

ノリパン制作担当。1960年生まれ、在日日本人。舞台制作者、写真家。

### 2004年度 招聘・派遣フェロースhip

2004年度の研究者招聘・派遣フェロースhipの申請期間は、10月1日から10月31日までです。招聘フェロースhipは、在韓日本国大使館、総領事館で申請を受け付け、派遣フェロースhipは日韓文化交流基金で受け付けます。申請の要項および書式は、各機関で配布しているほか、基金ウェブサイトからダウンロードして入手できます。

### 2004年度助成事業募集要項

#### 【人物交流】

2004年度(2004年4月～2005年3月)の人物交流分野の助成募集要項が

完成しました。2004年度は、**青少年・草の根交流、シンポジウム・国際会議、芸術交流**の3つのカテゴリーに分けて募集を行います。なお、参加者が青少年や大学生中心でフィールドワークや交流行事が組み込まれたプログラムについては、「日韓共同未来プロジェクト」として、積極的に採用する予定です。上半期募集(2004年度全期間の事業を対象とする)は、**2004年1月5日から1月30日まで**、下半期募集(2004年10月～2005年3月に実施する事業を対象とする)は**2004年7月1日から7月30日までの期間**にそれぞれ申請を受け付けます。申請の要項および書式をご希望の方は、基金に直接問い合わせるか、基金ウェブ

サイトからダウンロードして入手してください。

#### 【図書出版】

2004年度(2004年4月～2005年2月)の出版助成の申請期間は、**12月1日から12月15日まで**です。募集対象分野は**単行書部門**(日本における韓国朝鮮研究の成果を公開するために刊行しようとする人文社会科学分野の学術図書、または韓国で出版され、日本に紹介する意義があると考えられる図書の翻訳書)と、**学術定期刊行物部門**(日本に所在する人文社会科学分野の学会・研究会などが、韓国朝鮮に関する研究活動の成果報告として刊行する学術誌)の2部門です。申請者は、単行書の場

### 訪日団

団体名	計	男	女	期間	団長
教員(初・中・高)	20	16	4	9/16-9/25	南仁淑 ソウル特別市教育庁中等教育課奨学官
大学生(1)	20	11	9	9/30-10/9	廉萬午 慶南大学校工科大学機械自動化学部教授
大学生(2)	20	7	13	9/30-10/9	盧宅煥 嶺南大学校商経大学国際通商学部教授

### 訪韓団

団体名	計	男	女	期間	団長
大学生(2)	20	9	11	9/23-10/2	津波高志 琉球大学法文学部人間科学科教授

合は日本に所在する出版社、学術定期刊行物は日本に所在する学会・研究会であることが条件となっています。

要項および書式は、基金に直接問い合わせるか、基金ウェブサイトからダウンロードして入手してください。

**韓国図書翻訳出版事業  
「韓国の学術と文化」シリーズ新刊**

以下の図書が韓国図書翻訳出版事業の一環として法政大学出版局から刊行されました。

『黄金の海・イシモチの海 - 韓国西海岸歴史民俗探訪 - 』（朱剛玄著、黒澤真爾訳）（原題『イシモチに関する瞑想』、1998年刊行、ハンギョレ新聞社）

古くから人々の行き交う文化交流の



場であるとともに魚群の群れる豊かな海であった黄海 - この海でかつて人々の生活を支え、林將軍という英雄神と結びついて親しまれてきたイシモチが姿を消そうとしている。韓国西海岸の浦々を踏査して、イシモチにまつわるかずかずの伝承と漁業技術の変遷を克明に記録し、忘れられた漁民たちの生

活と信仰を浮彫りにする。本書は、神話にまで語り継がれたイシモチを主人公としたユニークな海洋民俗誌であり、イシモチをめぐる人々の記憶と文献資料をたどりながら、海の生態系を破壊して人々の生活の根拠を奪う現代科学技術文明のエゴイズムを鋭く告発し、自然との正常な関係 - 生命を育む海 - の回復をめざす警世の書である。

**【訂正とお詫び】**  
日韓文化交流基金NEWS第26号の「助成事業紹介」において、執筆者のお名前を「李承熙 韓国国立中央博物館学芸研究官」と表記いたしましたが、正しくは「金承熙 韓国国立中央博物館学芸研究官」です。金承熙氏をはじめ、関係者の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。

**中高生訪日団**

団体名	計 <sup>1</sup>	男 <sup>2</sup>	女 <sup>2</sup>	訪問校	期間	団長
高校生（2）	99	34	56	大阪府立金剛高校、長野高校	9/30-10/4	李在春 全羅北道教育庁奨学官
	1 引率含む		2 生徒のみ			

**中高生訪韓団**

団体名	計 <sup>1</sup>	男 <sup>2</sup>	女 <sup>2</sup>	訪問校	期間	団長
山形県高校生	104	34	61	大真高等学校	9/18-9/22	柳谷豊彦 山形県教育庁高校教育課課長補佐
	1 引率含む		2 生徒のみ			

# 韓・日は一層の協力で新しい発展モデルを構築しよう

李鐘允

周知のように、韓・日経済は、今、停滞し、不安定な状態が続いています。1980年代までの韓日経済は、持続的な発展を成し遂げ、日本経済の成功は世界の国々から羨望的となり、また韓国経済も発展途上国の中では極めて良好な成果を見せました。それにもかかわらず、日本経済はバブル崩壊の1991年以降から低迷をはじめ、いまだに停滞の淵から抜け出せていません。一方、韓国経済も1997年の為替危機によりIMFの管理体制下に入るほどに体力が弱り、今も不安定な状態が続いています。現在の韓日経済の停滞と不安定は韓日の経済発展の失敗から導かれたのではなく、成功の後に現れてきたものです。言ってみれば、韓日ともに経済の転換の産みの苦しみの時期であるともいえます。私の韓日経済の比較研究も、このような認識を基にしています。

それでは、韓日経済はなぜ転換期の陣痛に苦しむことになったのでしょうか。それは、なによりも、後発国としての韓日経済が欧米先進国経済に効率的にキャッチアップするために構築し

てきた発展システムの持続を困難にする外部環境の出現によるといえます。今まで、金融産業はいわゆる「護送船団方式」で運営されてきました。しかし、金融企業間の死活をかけた競争を要求するWTO体制と、また株式価値の極大化を要求する新経済(ニュー・エコノミー)などがいまや新たな外部環境として出現しています。このような環境の出現により、日本は大量の不良債権を、また韓国は激しい労使の対立を発生させています。つまり、韓日経済の成功の中に潜んでいた脆弱な部門が、新しい環境の出現によって露呈されることになったのです。

この脆弱な部門を効率化し、韓日経済を再び安定的な発展に導くということが、私の研究の核心的な課題であるといえます。この課題へのアプローチと関連して指摘したい点のひとつは、新たな環境の出現の時点で、欧米諸国は、EUやNAFTAを結成するなど、近隣の国々と協力体制を強化しているということです。例えてみると、新しい外部環境という台風に乗って、彼らは力を合わせて丈夫な傘を作って台風

の被害を避けようとしたわけです。私たち東アジアの国々も、そのような傘を作る必要があり、そのシステムをつくる役割は、経済発展段階と経済規模を合わせて考慮すれば、なんとといっても韓日が主導すべきだといえます。

韓日両国は1965年の国交正常化以来、協力関係を深めてきました。1962年から1998年にかけて日本の対韓投資は約63億ドルに達しています。具体的には、三菱の現代自動車に対する資本投資、マツダの対起亜自動車投資、ダイハツの完成車および部品関連の技術提供などが挙げられます。一方、同期間中の日本の対韓投資に比べ、韓国の対日投資(約4億ドル)も、千葉に起亜ジャパン技術研究所を設立するなど、規模は小さくても活発に行われてきました。さらに、表で示したように、最近の動きを見ると、先端技術の開発を中心に韓日企業間の提携が行われたり、韓日企業の第3国への共同進出が行われています。

韓日経済が直面している転換期の課題を克服するという局面においても、今まで以上に次元の高い協力体制の構築が求められているといえます。私たちは力を合わせてそのシステムづくり



イ ジョンウン

韓国外国語大学校商経大学貿易学科教授。現在、一橋大学で、「アジア金融危機以降の韓・日経済の対応方式の差異と評価」というテーマで研究を行っている。著書に、『苦悶する韓日経済』(韓国外国語大学校出版部、2001年)、『情報化時代と韓日経済協力に関する実態分析』(情報通信部、1997年)ほか。

## 最近の韓日企業の動き

### 韓日提携

三星電子	東芝と半導体提携拡大(HDTV用IC技術導入、フラッシュメモリ - 共同開発)
三星電子	NECとの提携拡大、NEC生産のDRAMを三星のポルトガル工場が調達
三星電子	富士通とLCD技術でクロスライセンス契約
現代電子	富士通と64M DRAMで提携・分業
韓国電子	東芝から個別半導体をOEM調達

### 第三国協力

浦項製鉄	タイの冷延鋼板合弁で新日鉄、川崎製鉄とともに参加
コデコ	インドネシア・インドセメントに丸紅と共同出資
京紡	丸紅と共同でインドで綿紡績事業
LG流通	三菱商事、香港企業と中国に物流センタ - 建設
LG電子	日立製作所と合弁でマレーシアに進出、半導体生産

出所)『韓国・先進国経済論』(深川由起子著、p305)

基金ホームページURL

<http://www.jkcf.or.jp>

発行 財団法人 日韓文化交流基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号  
虎ノ門ワイコービル3F

電話 03-5472-4323 FAX 03-5472-4326

発行日 2003年10月3日